会員の皆様にお聞きしました

新南陽の景況感

監修・分析／マサエンジニアリング代表
中小企業診断士　佐伯　昌之　氏

調査概要

調査対象期間　2024年7月～9月（現状）における景況感と、2024年10月～12月（今後）における景況見通し

調査対象　新南陽地域の企業67社

調査方法　商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目　「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

全体の業況DIはマイナス幅を拡大（悪化）している。仕入れコスト増が続く中での賃金上昇や深刻な人手不足は続いている。先行き見通しの業況DIは改善しており、今後の需要増加に期待したい。

新南陽地域の2024年7月～9月期の業況DIの全産業合計値は▲57．1％となり、前期調査（2024年4月～6月期）よりもマイナス幅が0．6ポイント拡大（悪化）した。また、全業種で売上高DI、採算DI、仕入単価DI、従業員DI、資金繰りDIが若干持ち直している。ただし、仕入単価DIが▲100％（全事業者が悪いと回答）を示している業種がほとんどで、依然として物価高騰の影響は続いている。

全国の「第177回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況DIのマイナス幅は▲1．4ポイント拡大（悪化）した。新南陽地域の今後3カ月先行き見通の全産業合計値のマイナス幅は縮小（改善）する見通しとなっている。全国の今後3カ月の先行き見通し「第177回中小企業景況調査」の全産業合計値のマイナス幅も縮小（改善）する見通しとなっている。

全国的には個人消費は実質賃金のプラス転換など明るい兆しが見られるものの、物価高による弱さが残り、中小企業の業況は力強さを欠いている。

（商工会議所LOBO調査9月）

【卸・小売業】
業況DI、採算DI、資金繰りDIの項目は前回に引き続き全て▲100％（全事業者が悪いと回答）。
今後3カ月の先行き見通しでは仕入単価DIのみマイナス幅が縮小（改善）する見込み。
コメントの報告はない。

【製造業】
業況DI、売上高DI、採算DI、設備DIのマイナス幅が拡大（悪化）している。
今後3カ月の先行き見通しでは資金繰りDIのみマイナス幅が拡大（悪化）、しかも▲100％（全事業者が悪いと回答）となっている。
資材や労務費の上昇コストに値上げが追い付いていないとの報告有り。

【サービス業】
業況DI、売上高DI、採算DI、従業員DIのマイナス幅が縮小（改善）している。マイナス幅が拡大（悪化）している項目は無い。
今後3カ月の先行き見通しの業況DI、売上高DI、採算DI、資金繰りDIはマイナスからプラスに転じる見込み。
仕入単価の上昇が続いているとの報告有。

【建設業】
業況DI、売上高DI、採算DI、従業員DI、資金繰りDIのマイ

ナス幅が縮小（改善）している。
今後3カ月の先行き見通しは資金繰りDIのみマイナス幅が拡大（悪化）、業況DI、売上高DIはさらに改善してプラスに転じる見込み。
10年先を見据えた経営計画が必要、現在の業績は好調との報告有。

【運輸業】
業況DI、売上高DI、採算DI、従業員DI、資金繰りDIのマイナス幅が縮小（改善）している。マイナス幅が拡大（悪化）している項目は無い。
今後3カ月の先行き見通しは採算DIのみマイナス幅が拡大（悪化）。採算DI、仕入単価DI、資金繰りDIは▲100％（全事業者が悪いと回答）となる見込み。
物価高騰等による利益の減少、働き方改革に対応しきれていないとの報告有り。

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI＝（増加・好転などの回答の割合）－（減少・悪化などの回答割合）
業況・採算：（好転）－（悪化）
売上：（増加）－（減少）

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-57.1	-25.0	-100.0	-100.0	-50.0	-50.0	50.0	-33.3	-100.0	42.9	-50.0	14.3	-50.0	0.0
売上高	-37.1	-12.8	-63.6	-77.8	-60.0	14.3	20.0	-50.0	-50.0	33.3	-20.0	11.1	-20.0	0.0
採算	-54.3	-38.9	-100.0	-100.0	-100.0	-33.3	20.0	-33.3	-100.0	33.3	0.0	0.0	-50.0	-100.0
仕入単価	-95.7	-89.7	-81.8	-75.0	-100.0	-66.7	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
従業員	81.8	81.8	100.0	100.0	50.0	50.0	33.3	33.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	25.0	33.3	0.0	0.0	50.0	60.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3
資金繰り	-73.3	-84.6	-100.0	-100.0	-33.3	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0	-33.3	-100.0	-100.0

※前年比…2024年7月～9月と前年同月の比　見通し…今後3ヶ月（2024年10月～12月）の見通し

会員の声

【製造業】
◇資材コストや労務費の上昇を値上げで確実に取り切れない点が直近の課題。

【サービス業】
◇最低賃金、物価高騰、人手不足の改善が必要。経費が上がる。
◇働き方改革には不満があり、給料を上げるにも上の会社から上がる事がありません。物価高騰でこの先が不安です。

【飲食・宿泊業】
◇仕入値が上昇し続けています。まだ商品の値上げをしておらず、計画的に進める予定。
◇働き方改革は、100％従業員さん（働く側）の事ばかり。

【建設業】
◇インフラがあと10年以上はつづく。10年先を見据えた経営計画を立て、体制を整えなければ生き残れないと思う。
◇昨年、売上好調だったため、昨期と比較すると売上減少ながら利益ペースは不変。物価高騰の折、仕入単価の上昇も有りますが、業況は順調です。
◇県内、県外問わず案件が増加している。業者不足もあるが今後は業者たよりの予算組をする傾向があるので見通しは良い。

【運輸業】
◇当年度は化学メーカー殿のSDMメジャー年であるため、昨年度より売上は上がっているが、人手不足と働き方改革のため外注や派遣を多く起用したこと、物価上昇のため、利益は前回SDMと比較して下がっている。
◇物価高騰による船体維持費2割上昇。運賃に反映されない。
◇人手不足は解消されつつあるが、新人教育に苦労している。働き方改革に対応しきれていない部分あり。